



中部人懇だより

令和4年度 第1号
令和4年7月発行
中部地区人権教育懇談会



「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年(昭和46年)に発足しました。

「中部人懇」って
こんな会です!



【令和4年度懇談会 予定】

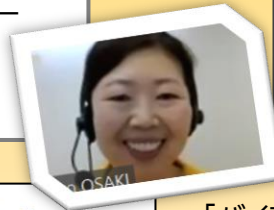
懇談会	期日	内容	対象
第1回	6月16日(木) 14:00~16:30	講義	小・中・高・特別支援学校の人権教育主任及び希望者
第2回	7月29日(金) 14:00~16:30	体験的参加型学習 講演・協議	小・中・高・特別支援学校の学級担任及び希望者
第3回	9月30日(金) 14:00~16:30	講義	保育所(園)、認定こども園等の参加希望者
第4回	10月15日(土) 9:30~11:30	現地研修・協議	教育行政関係者 PTA会長、人権同和教育推進部長、部員

【第1回懇談会 報告】 期日:令和4年6月16日(木) 参加者 42名

講義

「教育者のためのバイアス取扱説明書」

講師 公益社団法人鳥取県人権文化センター
次長兼上席専任研究員
尾崎 真理子さん



- 1 バイアスがひきおこす問題
- 2 日常にひそむ「取扱注意」のバイアス
 - (1) ハロー効果
 - (2) 確証バイアス
 - (3) 黒い羊効果
 - (4) 根本的な帰属の誤り
- 3 バイアスに絡め取られないための方法

バイアスをうまくコントロールしよう!

- バイアスをなくすことは難しいが、コントロールはできると理解しよう。
- さまざまなバイアスや心理現象について知ろう。
- 自分の言動がバイアスに影響されていないか日々チェックするクセをつけよう。
- 人と指摘し合おう。
「それ、バイアスだったりして?」
→指摘されてバイアスだと気づいたら直そう。
- 自分が所属する集団や組織にバイアスが入り込んでいないか点検してみよう。



「バイアス」とは、人の考えや判断に歪みや偏りをもたらす心の仕組のことで、「本人は気づいていないことが多い」、「日々の何気ない言動をとおして外に現れる」といった特徴があります。

講義をとおして、参加者は誰にでも起こりうるバイアスのメカニズムについて知るとともに、バイアスをいかにコントロールしていくか具体的に学びました。校内での人権教育推進、子どもへの関わり方について改めて考えるよい機会となりました。

参加者の振り返り(一部)

- ◆「バイアス」のコントロールについて
 - ・バイアスは誰にでもあるものであり、心が弱くなっているときには特に大きく現れるのだろうと思う。直接子どもと関わる仕事をしている私たちは、特に子どもたちに対して決めつけをしたり偏見をもったりしていないか日々振り返ることが大切だと感じた。
 - ・生徒に対するバイアスがいたるところに存在すること、自分自身の中にもバイアスがあることを感じた。
- ◆校内への学びの還元について
 - ・職員研修で本日の学びを話していきたい。バイアスを考えることで自分のこと、目の前の子どもたちのこと、職員同士のことを考えるきっかけにしていきたい。
 - ・夏季休業中に人権教育研修を行う予定にしているので、本日の研修内容を取り入れてみたい。
 - ・まずは自分自身の言動を見直してみる。そして、時々振り返る。さらに、みんなでバイアスが働いていないか話してみることも大切だと感じた。